

2020年度一般入学試験(学科別) 記述式問題 解答

科目:2月4日 史学科・学科試験

問 I	1	画期	2	従属的	3	遭遇	4	金科玉条	5	やゆ
(1)	6	希薄	7	曖昧	8	凌駕	9	新興	10	苛烈

(2) (選んだ語句の記号)

(あ) 共時性
対語は通時性。通時性が対象の歴史的变化を追いかけるのに対して、共時性は同一の時における変化や差異に注目する。
(い) アンシャン・レジーム
古い体制の意。特に、フランス革命以前の絶対王政期のフランスの社会・政治体制をさして用いられる言葉。
(う) ミッシングリンク
生物の進化過程を一連の鎖とみればあい、連続性が欠けた部分を指す言葉で、様々な現象に適應される。

(3) ・ヨーロッパ側の意図・事情からすれば、植民地獲得を目指す16世紀と、欧米列強が科学技術などの圧倒的な力をもって世界を植民地にした時代の規模と質はまったくちがうことが区別できていけばよい。
・日本の場合、16世紀にはそうした西洋からの衝撃はあったものの、植民地となるほどの脅威を感じさせるものではなく、事実、ヨーロッパ諸国の力は大きな影響をあたえなかった。

(4) 「近代」には、ある種の価値意識があり、その価値意識はプラスの意味とは限らない。それに対し、「近世」には必ずしも内容的指標や価値意識がともなわず、地域により異なる内容を包含できる。

(5) (選んだ傍線部の記号)

(甲) 「アメリカ大陸の銀」
16世紀半ば以降、メキシコ、ペルー、ポリビアなどアメリカ大陸の銀がヨーロッパに流入すると、商業革命にともない、ヨーロッパの銀価が下落し、大幅な物価上昇となる価格革命を生じさせた。
(乙) 「日本の銀」
島根県の石見大森銀山は、16世紀に神谷寿偵らによって開発され、灰吹法によって生産を飛躍的に増大させた。ポルトガルとの交易に用いられた日本の銀は、世界全体の3分の1を占めたという。

(6) ・論述の論理性に採点の基準を置く。細かな事実の正確さよりも、「私はこう考える → なぜなら、…」の論理性、およびその根拠の妥当性を重視して採点する。
・ヨーロッパの歴史学や、それを踏襲した日本の歴史学の時代区分「古代」「中世」「近世」「現代」の賛否や批判が書けていけばよい。

問 II (選んだ用語の番号)

(1) 『日本書紀』
720年に成立した最古の官撰正史。舎人親王らが編纂にあたり、中国の歴史書にならい、神代から持統天皇までを漢文の編年体でまとめた。『六国史』の最初で、『古事記』とあわせ「記紀」と略称する。
(2) 生類憐みの令
5代將軍徳川綱吉が1685年以降に出した動物愛護令の総称。1687年以降、特に犬の愛護に関して極端に厳しくなったため、綱吉は犬公方などと称されている。1709年、綱吉が死去すると廃止された。
(3) 五大改革指令
1945年マッカーサーが幣原首相に指示した5項目。参政権付与による婦人の解放。労働組合の結成奨励。教育制度の自由主義的改革。秘密警察など圧政(制)的諸制度の撤廃。経済機構の民主化をいう。
(4) 煬帝
隋の第2代皇帝で、大運河建設などに力をいれ、吐谷渾や林邑を討伐するなど周辺民族にたいしても積極策をとったが、3回に及ぶ高句麗遠征には失敗し、農民・豪族の反乱を招き臣下に殺された。
(5) 李鴻章
清末の政治家。太平天国などの鎮圧に活躍し、清朝の実権を握り、洋務運動を主導した。日清戦争の下関条約では全権を務めた。1896年に露清秘密条約をむすび、義和団事件後は辛丑和約を調印した。
(6) 元首政(プリンキパトゥス)
古代ローマのアウグストゥスによる政治体制を指した言葉。共和政期の形式は残すが、実質的にはアウグストゥスが一人で多数の公職の権限を同時に保持し、実質的には帝政と同じである政治体制。
(7) カール・マルクス
19世紀のドイツの社会主義者。資本主義社会の分析から、その弊害により社会主義への移行が必然である、との理論を提唱した。主著に『資本論』や、エンゲルスとの共著『共産党宣言』がある。